

2022年度入学生用 常磐大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神

実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。

教育理念

自立・創造・真摯

学科の教育研究上の目的

(1)中等教育段階の生徒の成長および発達への深い理解の上に、優れた専門の学術および技能を身につけた豊かな識見ならびに信頼される有為な資質および新しい教育課題に適切に対応できる能力を備えた教員を養成する。
(2)中学校教育および高等学校教育の一貫した中等教育の学校教育制度の理念を志向した、理論および実践の統合に向けた教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
(1)編成方針		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
<p>(1)編成方針 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた人材養成の目的を達成するために、教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、および高度専門職としての教育者に求められる力量の修得に向け、また中学校教諭一種免許状(社会)および高等学校教諭一種免許状(地理歴史)の取得要件を満たすためのカリキュラムを体系的に編成します。</p>							
<p>(2)実施方針</p>						<p>1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)</p> <p>2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、幼児・児童を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)</p> <p>3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)</p> <p>4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)</p> <p>5.学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(思考・判断)</p> <p>6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)</p>	
<p>1.学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。</p>		<p>学びの技法Ⅰ 学びの技法Ⅱ 統計の基礎 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ キャリア形成と大学 社会調査入門 英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ</p>	<p>英語Ⅳ 英語Ⅵ</p>	<p>人間科学概論</p>			
<p>2.学科共通科目等では、社会におけるさまざまな教育活動の担い手となることを見据え、「教育者への道Ⅰ・Ⅱ」「教育調査法実習」等の授業を通して、思考力や表現力を高める教育を行います。</p>			<p>教育者への道Ⅰ 教育者への道Ⅱ 発達心理学</p>		<p>教育調査法実習 生涯学習学概論 教育哲学</p>	<p>2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、幼児・児童を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)</p>	
<p>3.教育の基礎的理解に関する科目では、教育の基礎的な理解を身につけるとともに、生徒への働きかけに必要な知識や技能を身につけるために、「教育学概論(中等)」「教職入門(中等)」「教育社会学(中等)」「教育心理学(中等)」「カリキュラム論(中等)」等の授業を通して、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行います。</p>		<p>教育学概論(中等) 教職入門(中等) 教育社会学(中等) 教育心理学(中等) カリキュラム論(中等)</p>		<p>学校と教育の歴史(中等) 教育経営論(中等)</p>			
<p>4.道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目等では、道徳教育・教育相談等に必要な知識や技能を身につけるために、「総合的な学習の時間の指導法(中等)」「生徒指導・教育相談(中等)」等の授業を通して、多面的多角的な考察を取り入れた教育を行います。</p>		<p>教育方法学(中等)</p>	<p>特別支援教育の理論と実践(中等) 道徳教育の理論と実践(中等) 総合的な学習の時間の指導法(中等)</p>	<p>特別活動論(中等) 生徒指導・教育相談(中等) 進路指導論(中等) 授業論(中等)</p>		<p>4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)</p>	
<p>5.教科に関する専門的事項では、社会科・地理歴史科の専門的な内容を学び、専門的な知識を身につけるために、「日本史Ⅰ・Ⅱ」「人文地理学Ⅰ・Ⅱ」等の授業を通して、問題解決・探求型の教育を行います。</p>		<p>日本史Ⅰ 日本史Ⅱ 人文地理学Ⅰ 人文地理学Ⅱ 自然地理学Ⅰ 自然地理学Ⅱ</p>	<p>アジア史Ⅰ アジア史Ⅱ アメリカ史 ヨーロッパ史 地誌 法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む) 経済学(国際経済を含む) 哲学概論 倫理学概論</p>	<p>アジア史Ⅲ 地域研究入門 地域研究(アジア)Ⅰ 地域研究(アジア)Ⅱ 地域研究(アメリカ)Ⅰ 地域研究(アメリカ)Ⅱ 地域研究(ヨーロッパ)Ⅰ 地域研究(ヨーロッパ)Ⅱ</p>			
<p>6.社会科・地理歴史科の指導法等では、社会科・地理歴史科の専門的な知識を基盤として社会科・地理歴史科の教え方を学び、実践的指導力を身につけるために、「社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ」等の授業において、ICTの活用や模擬授業に重点を置いた教育を行います。</p>			<p>社会科・地歴科教育法Ⅰ 社会科・地歴科教育法Ⅱ 社会科・公民科教育法Ⅰ 社会科・公民科教育法Ⅱ ICT教育の理論と方法(中等)</p>			<p>6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)</p>	
<p>7.教育実践に関する科目等では、実習校での教育実習を行うとともに、教員採用試験等に備えて教育に関する知識の定着を図るために、「中学校教育実習(事前事後指導を含む)」「高等学校教育実習(事前事後指導を含む)」等の授業を通して、実際の教育現場で経験を積むことに重点を置いた教育を行います。</p>		<p>介護等の体験 学校インターンシップA</p>	<p>学校インターンシップB 学校インターンシップC</p>	<p>中学校教育実習(事前事後指導を含む) 高等学校教育実習(事前事後指導を含む) 教職設計演習Ⅰ 教職設計演習Ⅱ 学級経営論 教育方法学演習 教育実践研究</p>	<p>教職実践演習(中・高) 教職設計演習Ⅲ</p>		
<p>8.卒業研究のうち、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、教育学の学びで身につけた資質・能力の有機的結合を深化させ、また「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、4年間の学びの集大成として、自分の専門領域に関する理解を深め、教育をめぐる現代的課題に対応する力を身につけるためにゼミナールに所属しゼミナール形式による教育を行います。</p>				<p>ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ</p>	<p>卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ</p>	<p>6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)</p>	

学士の学位授与

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
											1.人文科学、社会科学、自然科学の諸領域にわたる広く深い教養と基礎的な知識を身につけ、各学科の専門性および人間科学の枠組みで総合的に理解している。(知識・理解)	2.人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析による的確な判断を下すことができる。(思考・判断)	3.人間科学に基づく高い倫理観を持ち、自らの社会的責任を理解し、自らが率先して行動する態度を身につけている。(態度)	4.各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用・実践能力を修得し、課題解決のための具体的方策を提示し、これを実行できる技能を身につけており、それによって社会に貢献することができる。(知識・理解、思考・判断、技能)
学部共通科目	HMS-101	社会調査入門	講義	2	1		○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するためのひとつの科目として、社会調査入門が位置づけられている(カリキュラム・ポリシー①)。この授業では、人間社会を実証的に研究するための方法としての社会調査法の基礎を学ぶ。前半部分では、社会調査とは何か、その意義、問いをたて調査を実施するまでのプロセスについて学ぶ。後半部分では、社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ。	(1)社会調査の基礎用語を理解し、調査の流れを説明できる(知識・理解)。 (2)調査倫理を遵守する態度を有している(態度)。 (3)調査を設計し、実施する際の留意点を説明できる(知識・理解)。	●		◎	
	HMS-201	人間科学概論	講義	2	3		○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するための科目である(カリキュラム・ポリシー①)。「人間」とは何か、という根本問題を探究している諸学問研究の成果を、学部3年次において再度とらえなおし、「人間科学」の形成過程とその学問的位置づけを考察する。また、履修学生相互の学びを通して、「人間観」「人間と科学技術」「人間集団」等をめぐる理解を深める。	(1)「人間性」を主題とする諸学問分野の理解に基づき、人間科学の学問的位置づけを説明できる(知識・理解)。 (2)異なる「人間像」を偏りなく理解し、説明できる(知識・理解)。 (3)人間や人間社会に関する課題について、多面的に考えようとする態度を有している(態度)。	●		◎	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)						
											1	2	3	4	5	6	
基礎科目	EDC-241	教育者への道Ⅰ	演習	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。 教育学科の専任教員がオムニバス形式で、教育基礎分野および教科教育分野について学際的に講義するとともに、茨城県教育研修センター・茨城県教育委員会など学外機関との連携による講義などを行う。	(1)教育基礎分野および教科教育分野の基礎知識を学際的に結び付けて理解することができる。 (2)教育活動に必要な社会人としての基礎的素養および教育者としての基礎的素養を身につけている。	●						
	EDC-242	教育者への道Ⅱ	演習	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。 教育学科の専任教員がオムニバス形式で、教育内容分野および教育の最新動向について学際的に講義するとともに、茨城県教育研修センター・茨城県教育委員会など学外機関との連携による講義などを行う。	(1)教育内容分野および教育の最新動向の基礎知識を学際的に結び付けて理解することができる。 (2)教育活動に必要な社会人としての基礎的素養および教育者としての基礎的素養を身につけている。	●						
	EDC-231	発達心理学	講義	2	2				教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。 認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え、高齢者の心理社会的課題及び必要な支援などについて講義する。	(1)認知機能、社会性、感情、思考と言語の発達に関する基礎的事項を理解できるようになる。 (2)人生の発達段階、すなわち乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期における心理と発達課題を理解できるようになる。 (3)定型発達と非定型発達に関する基礎的事項を理解できるようになる。	●						
	EDC-352	生涯学習学概論	講義	2	1	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。 社会の様々な場面で多様な学習者への学習支援に携わる上での基本的資質・素養を身につけるため、生涯学習の理念、社会教育の意義と展開、生涯学習社会の実現における学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について講義する。	(1)生涯学習の理念の歴史的・国際的動向について説明することができる。 (2)社会教育の意義と展開について説明することができる。 (3)生涯学習社会の実現のための学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について考察することができる。	●						
	EDC-351	教育哲学	講義	2	2	○			教育思想と教育言説の分析 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。 近年の教育思想を捉え、その特質を解説するとともに、教育に関する様々な言説事例を取り上げ批判的に分析し、教育言説の課題および適切な教育言説作成の方法について講義する。	(1)現代の代表的な教育思想の特質を説明することができる。 (2)教師として適切な教育言説を作成することができる。	●						
	EDC-331	学級経営論	講義	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 学級担任として身につけなければならない学級経営の知識・具体的な手法を講義するとともに、それらを実践的に深めるために担任として実際に直面する場面を想定して演習を行う。	(1)学級という組織や学級経営の目的などを理解することができる。 (2)学級経営を行う上での知識や方法について理解し、実践力を習得している。 (3)学級経営に必要な保護者・地域との良好な関係づくりの基礎を習得している。					●		
	EDC-111	介護等の体験	実習	2	1	2			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 義務教育を担うことになる小学校および中学校の教諭の普通免許状の取得希望者の必修科目として、1年次で事前指導を行い、2年次で特別支援学校・社会福祉施設等で体験を行う。	(1)特別支援学校および社会福祉施設等における介護等体験の意義や体験内容を理解し、認識を深めることができる。 (2)介護等体験を終えた後に自己の体験活動を振り返り、義務教育段階の学校教員を目指す上での自己の課題を適切にとらえることができる。						●	
	EDC-121	学校インターンシップA	実習	1	1		○		1年次秋 semester 用 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 採用希望校種の幼稚園・小学校・中学校・高等学校における教育活動や部活動、学校事務などの学校における活動全般の基本的事項について、支援や補助業務を行うインターンシップおよびその事前事後指導を行う。インターンシップは1 semester 当たり計15時間以上実施する。	(1)採用希望校種の学校現場の実際について観察し理解することができる。 (2)これからの教員に求められる資質・能力を理解することができる。						●	
	EDC-122	学校インターンシップB	実習	1	2		○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 学校インターンシップAにおける知見をもとに、採用希望校種の幼稚園・小学校・中学校・高等学校における教育活動や部活動、学校事務などの学校における活動全般の具体的な事項について、支援や補助業務を行うインターンシップおよびその事前事後指導を行う。インターンシップは1 semester 当たり計15時間以上実施する。	(1)採用希望校種の学校現場の実際について実践的に理解することができる。 (2)学校教員としての実践的指導力の基礎的内容を習得している。						●	
	EDC-123	学校インターンシップC	実習	1	2		○		2年次秋 semester 用 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 学校インターンシップA・Bにおける知見をもとに、採用希望校種とは異なる校種の幼稚園・小学校・中学校・高等学校における教育活動や部活動、学校事務などの学校における活動全般の基本的および具体的な事項について、支援や補助業務を行うインターンシップおよびその事前事後指導を行う。インターンシップは1 semester 当たり計15時間以上実施する。	(1)採用希望校種以外の学校現場の実際について実践的に理解することができる。 (2)学校教員としての実践的指導力の具体的な内容を習得している。						●	
応用科目	EDC-332	教育方法学演習	演習	2	2	○			「学習科学」とその実践的活用に向けて 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 現代の教育方法学の基底にある「学習科学」の多様な知見および授業づくりへの実践的活用方法について講義するとともに、各自が関心のある「学習科学」の理論を取り上げた討論、授業づくり・教育方法に関する小論文作成の演習を行う。	(1)「学習科学」の諸理論を理解することができる。 (2)「学習科学」を踏まえた授業づくりの視点を理解することができる。 (3)授業づくり・教育方法について小論文を作成することができる。						●	
	EDC-333	教育実践研究	実習	2	3	○			「社会が変われば学校も変わる」ことについての理解を深めよう 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 予測不可能なこれからの社会における課題の発見とそれを解決するための基盤となる知識、スキル、能力を身につける上で、学校で行われる人材育成はどう変化していくのか検討する。	(1)学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、実践的指導力を伴う授業力を習得している。 (2)これからの学校のあり方について自分の考えを構築することができる。 (3)これからの学校のあり方についての自分の考えをプレゼンテーション等で適切に発表することができる。						◎	●
	EDC-371	教育調査法実習	実習	2	3	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。 教育調査に関する基礎的知識を理解し技能を習得するために、前半は質問紙調査法、後半は面接法を中心とするフィールドワークを行う。履修者自身が問題を設定し、調査を計画し、データを収集・分析し、報告する過程に実習形式で取り組む。	(1)教育に関する問題を認識し、問いの設定、調査の立案、実施、結果の分析、報告という一連の教育調査の過程を理解し、実践することができる。 (2)SPSSの基本的な操作方法を理解し、結果を出力することができる。 (3)地域や学校現場における教育課題を発見することができる。	●						
	EDC-361	教職設計演習Ⅰ	演習	2	3	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 学校教育に関する法令、学校における教育活動の実際、児童生徒理解の方法等の基礎的理解をもとに、課題に対するグループ討議やワークショップ等を行う。	(1)学校教育課題の現状と課題解決の方法、教員の身分的根拠等を理解することができる。 (2)教師の仕事について理解し、教師になるための心構えや意識の向上させることができる。						●	◎
	EDC-362	教職設計演習Ⅱ	演習	2	3	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 教職に向けた実践的な個人面接や集団討論の方法、小論文の書き方のポイント等を習得するために、模擬面接、模擬集団討論、小論文の演習を行う。	(1)個人面接や集団討論の方法、小論文の書き方のポイント等を習得している。 (2)自身がこれから教師になるための課題を適切に理解することができる。						●	◎

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)					
										1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴った授業力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)
	EDC-363	教職設計演習Ⅲ	演習	2	4	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。一般教養や教職教養および今日的な教育課題の解決に関する知識・理解の定着を図るために、演習問題を中心としたより実践的な教員採用試験対策を行う。	(1)教員採用試験に向けて一般教養や教職教養に関する知識・理解を定着させることができる。 (2)教員採用試験に向けて今日的な教育課題を解決するための考え方や取り組みを表現することができる。					●	◎
	EDS-112	教職入門(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。	(1)教職の意義:我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解することができる。 (2)教員の役割:教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。 (3)教員の職務内容:教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務を理解することができる。 (4)チーム学校への対応:学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解することができる。					●	
	EDS-111	教育学概論(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。	(1)教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解することができる。 (2)教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解することができる。 (3)教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することができる。					●	
	EDS-311	学校と教育の歴史(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べることができる。	(1)「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べることができる。					●	
	EDS-114	教育心理学(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。	(1)幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程:幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解することができる。 (2)幼児、児童及び生徒の学習の過程:幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解することができる。					●	
	EDS-312	教育経営論(中等)	講義	2	2	○		公教育の法制度・行政・経営の仕組み 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。	(1)現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解することができる。 (2)学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解することができる。 (3)学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解することができる。					●	
	EDS-113	教育社会学(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。	(1)社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解することができる。 (2)現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解することができる。 (3)学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解することができる。 (4)学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解することができる。					●	
	EDS-211	特別支援教育の理論と実践(中等)	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実態・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。	(1)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解することができる。 (2)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解することができる。 (3)障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援:障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解することができる。					●	
	EDS-115	カリキュラム論(中等)	講義	2	1	○		カリキュラムの基礎論とカリキュラム編成 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	(1)学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解することができる。 (2)教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解することができる。 (3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解することができる。					●	
	EDS-324	授業論(中等)	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。学校生活の大半を占める授業時間は、児童・生徒にとって大きな役割と意味を有している。特に分かりにくい授業は、本人にとって苦痛であり、さらに、授業でのつまずきによって学ぶ意欲を失い、学校嫌いや不登校の主な原因になっている。教師の実践力が日常的に最も発揮される場面は授業である。「授業論」は、主体的・対話的で深い学びを実現するため、実践的指導力のある教師を目指し、授業を行う上での基本的な事柄を学ぶ。	(1)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)学習課題の設定や探究的なプロセスの重要性を理解し、指導に生かすことができる。 (3)主体的・対話的で深い学びの重要性を理解し、授業を実践することができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。					●	
	EDS-141	日本史Ⅰ	講義	2	1	○		日本の政治・経済の歩み 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「一般的包括的内容を含む科目」として、日本史の専門的知識、日本史教育の基礎的知識を身につけるために、主に、時代ごとの政治・経済の特質と展開に焦点を当て、原始・古代から近現代に至る日本の通史を講義する。関係史料の読解や最新の学説の紹介・批判も行い、日本の国家・社会の歴史を多面的に考察・理解する力を付ける。東アジアあるいは世界の中の日本という視点も重視し、国際関係の変化と日本史の展開を関連づけて考察していく。	(1)各時代の政治・経済・対外関係の特質と展開を相互関係・因果関係として説明できる。 (2)時代状況・背景を十分踏まえた上で、歴史的諸事象が生じた理由とその後の社会への影響を自身で考察できる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に日本史に関する知識)を身につけている。					●	
	EDS-142	日本史Ⅱ	講義	2	1	○		江戸時代の農業史 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。日本の経済史・産業史に関する専門的知識を深め、多面的に考察する力を鍛えるために、日本の農業史について講義する。まず、現代の日本農業が抱える諸課題を周囲の政治的・経済的・社会的環境との関連で理解し、問題の根源はどこにあるのか、江戸時代の農業と農村に遡って歴史的に考えていく。江戸時代の農業は、在来農法の基盤をなし、海外貿易が著しく制限されている中で日本人の衣食住を支え、伝統的な暮らし方や農村風景を形作った。農業や農村の安定・発展にかけた百姓の知恵と工夫を掘り起こし、多様で豊かに展開した日本農業の特質を考察する。	(1)前近代日本の基幹産業であった農業に関心をもち、在来農業の特質と展開について説明できる。 (2)江戸時代の農業に凝縮された日本人の知恵と工夫、自然や社会の中で生き方を理解し、現在と将来の農業・社会のあり方を構想できる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に日本史に関する知識)を身につけている。					●	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)					
										1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)
	EDS-241	アジア史 I	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 「一般的包括的内容を含む科目」として、アジアの歴史について古代から現代までを通して概観する。対象地域としては、アジアの東部(東・東南アジア)と西部(西・南アジア)を取り上げる。近年の地域事情や研究動向にも触れ、現代との繋がりを新たな情報も考慮しながら、多角的な考察と理解を目指す。	(1)アジアの歴史について、基本となる情報を把握し、基礎知識を十分修得した上で、自ら説明することができる。 (2)各時代と現代とのつながり、これまでの各地域と日本の結びつきを意識し、国際関係についてより深い洞察を持つことができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア史に関する知識)を身につけている。						
	EDS-242	アジア史 II	講義	2	1	○	東アジアの歴史思想	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 アジアの歴史思想の基礎にある『春秋』の思想について、その勃興から、変遷、『神皇正統記』や『大日本史』など日本の歴史書への影響に至るまでを講義する。それにより、現代の中国、日本の歴史に対する考え方がどのように形成されてきたのかを考えを深め、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を養う。我々はなぜ歴史を学ばなければならないのか、誰も一度は疑問に思ったことがあるだろう。しかし、我々は歴史の恩恵を様々な方面で受けており、歴史無くして今の生活を語ることはできない。人類は、まさに有史以来、歴史を書き続け、今に至っているが、何を何のためにどのように記述するのかなど、歴史に対する考え方は古今東西様々である。本科目は、そうした歴史観についても考えていく。	(1)東アジアの歴史思想を踏まえて、歴史の中にはそれを支える様々な思想があることを理解することができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア史・中国史に関する知識)を身につけている。						
	EDS-341	アジア史 III	講義	2	1	○	西南アジアの歴史	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 西南アジアの各地域の展開を時間軸に沿って把握した後、さらに地域間の相互関係も追究していく。西アジアと南アジアは、古代文明の発祥から現代までの長い歴史をもつ地域である。また、今日では複雑な国際関係の舞台ともなっている。そうした現代の国際情勢も踏まえながら、講義を行う。	(1)西アジア(オリエント)と南アジアの初期の歴史について、基本となる情報を十分に把握した上で、現代とのつながりを理解することができる。 (2)現在の西アジア地域の錯綜した状況およびその国際関係全体との結びつきに対して、より深い洞察を持つことができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア史・西南アジア史に関する知識)を身につけている。						
	EDS-243	アメリカ史	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 「一般的包括的内容を含む科目」として、アメリカ合衆国の歴史を世界との関係のなかで検討していく。扱うテーマは、資本主義世界とのなかでのアメリカ合衆国の発展、軍事・政治・経済的な世界進出、人種関係など多岐にわたる。各テーマを通じて、合衆国がいかにして「世界のモデル」を提供してきたのかを、批判的かつ多角的に検討していく。また、本授業では、「歴史事項を覚える」ことよりも、歴史事項が社会に与えた影響など、思考力の養成に重きを置く。	(1)資料の読解を通じて、歴史的な事象を論理的に思考する力を身につけ、アメリカ合衆国の歴史を世界との関係のなかで考察できる。 (2)国民国家形成の歴史を理解し、説明できる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアメリカ史に関する知識)を身につけている。						
	EDS-244	ヨーロッパ史	講義	2	1	○	教職課程	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 「一般的包括的内容を含む科目」として、ヨーロッパの歴史を通観する。ヨーロッパは常に「統合」を志向しつつ、「多様」も許容してきた点で独特な歴史をもつ地域である。さらに、これらの特徴的な出来事やその影響は、ヨーロッパ地域にとどまらず、世界規模の歴史事象や価値観を生み出している。政治史を中心としつつ、ヨーロッパ歴史事象をふまえて、そうした特徴・特質を論じていく。中等・高等学校の教員として、生徒の「生きる力」の育成に必要な実践的資質と技能につながる「世界史」「ヨーロッパ史」の専門的知識を学ぶ。	(1)ヨーロッパの歴史伝統の特徴に関する専門的知識を身につけ、ヨーロッパの歴史事象の特質を基盤に、古代から現代までのヨーロッパの歴史を俯瞰できる。 (2)高校世界史の図説を使いこなして、ヨーロッパの歴史上の事象を説明できるだけの主体的学習力・言語表現力を身につけている。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ史に関する知識)を身につけている。						
	EDS-252	地域研究入門	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 東南アジア・西ヨーロッパ・オセアニア・北アメリカの諸地域を題材として、地域研究の基本を学修する。諸地域の特質について国や民族の相互関係も考慮しながら講義し、最新の情報とともに、地域研究の方法論を検討する。	(1)地域研究の方法の基本を十分に理解しその実践を進められ、対象となる地域について、学んだ方法を適用して研究し、その結果を伝達できる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に地域研究に関する知識)を身につけている。						
	EDS-151	人文地理学 I	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的内容を含む科目」である。 人文地理学は、人間と地域との繋がりを明らかにする学問である。大学レベルの人文地理学初學者のための入門として、基礎的な概念を教授するとともに、学生にとって身近な地域である大学周辺をフィールドとし、地理学特有の概念や、分析・判断・洞察の技能、即ち「地理的な見方や考え方」を習得していく。また、大学周辺のフィールドワークを通じ、実際の地域を観察することの重要性も学ぶ。	(1)地理学の基礎となる知識・技能、及び、地理的な見方や考え方の前提としての、読図・作図の能力、統計資料の収集・表現の能力、文献の収集の能力、聞き取り調査の能力を身につけている。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に人文地理学に関する知識)を身につけている。						
	EDS-152	人文地理学 II	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 世界で繰り広げられる様々な人間活動の中でも、人文地理学の一分野である、交通地理学に関する諸事象を取り扱う。特に、交通地理学で主流である計量的手法を援用した分析手法を中心に扱う。そして、地域構造の変容に対し、交通現象が与える影響を理解する。	(1)交通地理学特有の手法を援用した分析手法を活用し、地域構造の変容に対し、交通現象が与える影響を理解することができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に人文地理学・交通地理学に関する知識)を身につけている。						
	EDS-152	人文地理学 II	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 現代社会の諸事象を地理的に見通すことによって、地理学の専門的な内容の理解と教科の実践的指導力を身につけるものである。とくに地理学の諸課題の中で、歴史地理的諸問題を具体例を挙げながら講義する。明治期以降の地域構造の変化のメカニズムを、日本の近代化の諸事象との関わりを視野に入れながら検討する。また、現在の地域変容の事例として、世界的イベントである1998年長野冬季オリンピックの開催や、それに伴う高速交通網の整備などによって急激に大きく変貌した長野県、2020年夏季オリンピックの開催が決まった東京や2025年の万博の開催が決めた大阪なども事例とし、開催までの都市整備計画などを取り挙げて、地域へのインパクトとそれに対応する変化の具体例を講義する。	(1)地理学に関する専門的知識・視点の修得の重要な要素である地域を時間軸のなかでとらえ、地域変容の因果関係・メカニズムについて説明することができる。 (2)地域変容に対する多様な評価について自らの意見を論理的に述べる事ができる。 (3)地理学に関する専門的知識をもとに、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (4)授業を成立させるための要件を理解し、基礎的な技能を持って指導することができる。						
	EDS-153	自然地理学 I	講義	2	1	○	「生活の場」としての自然環境A	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的内容を含む科目」である。 自然環境と人間活動との相互関係を明らかにする地理学の成果を踏まえて、今日の環境問題を理解するために必要な自然地理学の基礎的知識を学ぶ。また、自然地理学的な観点からさまざまな地域の自然環境、地球環境問題を理解していくことによって、その対応策を考える。	(1)地理学の基本的知識の習得とともに地理学的なモノの見方・考え方を理解でき、地域に対する理解を深めることができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に自然地理学に関する知識)を身につけている。						

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)					
										1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)
中等教育コース科目	EDS-154	自然地理学Ⅱ	講義	2	1	○	「生活の場」としての自然環境B	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。自然環境と人間活動との相互関係を明らかにする地理学の成果を踏まえて、今日の環境問題を理解するために必要な自然地理学の基礎的知識を学ぶ。また、自然地理学的な観点からさまざまな地域の自然環境、地球環境問題を理解していくことにより、その対応策を考える。	(1) 地理学の基本的知識の習得とともに地理学的なモノの見方・考え方を理解でき、地域に対する理解を深めることができる。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に自然地理学に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-251	地誌	講義	2	1	○	地域の見方・考え方	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目、「一般的包括的内容を含む科目」である。世界、アジア、日本、茨城県といったいくつかのスケールで地域の見方を学び、地誌的な見方・考え方を修得する。グローバル化が進む現代社会を理解するためには、世界の事情に通じることはますます重要になってきている。しかし、世界の諸地域を理解するためには、私たちの住む地域社会にどのような特徴があるのか、他の地域とどのような差異があるのかといった身近な地域の理解も不可欠であり、それは地域をリアルに理解する有効な手法でもある。そうした地域の捉え方を学んでいく。	(1) 地理的事象を地誌的に考察し、様々なスケールにおける地域の見方・考え方を修得している。とくに身近な地域を再認識することによって、現代社会で自立的に生きるための地理観を身につけている。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に地誌に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-351	地域研究(アジア)Ⅰ	講義	2	1	○	中国の抱える課題を中心に	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。中国の国家体制について理解するため、まず中国共産党と中華人民共和国の歴史に関する講義を行う。現在の中国共産党が指導する国家と政治体制のあり方について論じた上で、中国の抱えるさまざまな問題とその対処方法について説明する。最後に、中国の「核心的問題」である領土問題に関連して少数民族問題と台湾との関係について説明し、日中関係についても理解を深める。	(1) 異なる国家体制について理解を深めるとともに、異なる価値観やイデオロギーについて知ることにより、自らの生きる社会のあり方について思索を深めることができる。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア地域に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-352	地域研究(アジア)Ⅱ	講義	2	1	○	西アジア	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。歴史上古代から重要な位置を占め続け、現代でも国際社会の注目を集める西アジア(いわゆる中東)を対象として講義する。西アジアのいくつかの地域を、国や民族の相互関係も考慮しながら、最新の情報とともに順次検討していく。そこに現われるさまざまな事象は、世界情勢の縮図であるとも言われ、国際問題を読み解く学力も養っていく。	(1) 他の地域との関係も考慮して西アジアの国家や民族の歴史と現状を深く理解し、複雑な国際社会を見きわめる有効な視点を持つことができる。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア地域に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-353	地域研究(アメリカ)Ⅰ	講義	2	1	○	地域研究の手法としての「社会史」: 黒人と先住民の政治と文化を中心として	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。アメリカ合衆国の未完の理想・理念である多様性のなかの「統一」というテーマに焦点を当て、同国の多様性を支えてきたマイノリティの人々と文化・政治の関係を概観する。具体的には、「アフリカ系アメリカ人」、「ネイティブ・アメリカン」が置かれてきた政治・社会状況を検討していく。	(1) 地域研究の手法としての「社会史」の方法論について基本的な内容を理解し、アメリカのマイノリティについて歴史的に理解することができる。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアメリカ地域に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-354	地域研究(アメリカ)Ⅱ	講義	2	1	○	研究手法の「学際性」について考える	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「地域研究(アメリカ)Ⅰ」で学習した地域研究の手法としての「社会史」に再び焦点を当てて、社会的弱者としてのマイノリティ(移民とジェンダー)の問題を中心として概観する。また、「人種」という概念を相対化し、社会的構築主義の立場から集団を一括りにすることが如何に可能(不可能)かを検討する。	(1) 移民や性的弱者が置かれてきた状況について理解し、「人種」の概念の歴史の変遷について理解できるようになる。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアメリカ地域に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-355	地域研究(ヨーロッパ)Ⅰ	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。ヨーロッパ地域の文化・社会に関連して、教育活動を担うにあたり必要な基本的資質・素養ならびに専門的知識を取り上げる。ヨーロッパ以外の世界に生活している私たちに影響を与えてきた、ヨーロッパ世界の事象やその特質を歴史的に考察する。古代オリエントから現代のEUまで、幅広く俯瞰的に事象や特質を取り上げて考察を深める。	(1) ヨーロッパ地域の文化・社会に関連して、教育活動を担うにあたり必要な基本的資質・素養ならびに専門的知識を身につけ、ヨーロッパ世界の特質を理解することができる。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ地域に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-356	地域研究(ヨーロッパ)Ⅱ	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。ヨーロッパ地域を対象として、第1に、「地域研究」という学問分野とは何か、どの様にして生まれ発展したかを、とくに植民地支配や戦争の道具であったという視点から講義する。第2に、「ヨーロッパ」と自称する地域の大圏(おおづか)みな捉え方を概説する。第3に、東欧・中欧諸国を含めた歴史や特徴、今日に至る問題点を概説する。第4に、一つの国や地域に関心を持つとはどのようなことかを、授業を担当する教員自身を事例研究の対象として学ぶ。	(1) 領域横断的な教養として、異国の事象について学び、また継続的に関心を持ち続け、地理と歴史を縦横にからめて国際的な観点から把握する習慣を身につけている。 (2) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ地域に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-261	法学(国際法を含む)	講義	2	1	○	日本法の基礎知識を学ぶ	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的内容を含む科目」である。法の定義、歴史、機能を学ぶ他、法の各分野(公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法)を講義する。法は現代社会が円滑に機能するために不可欠な装置である。社会のすべての成員は日常生活において様々なルールに従い、あるいはこれを用いているが、これらのルールの中で、法は最も重要なものである。法の基盤と体系を学ぶことは現代社会を理解するための大切な手掛かりとなる。このような観点から、具体的な事象への法適用を踏まえて講義する。	(1) 法の概要を理解し、法とは何かについて、また、日本の法体系と法の適用の仕組みについて説明することができる。 (2) 社会の様々な事象について法的観点から分析することができる。 (3) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に法学に関する知識)を身につけている。				●		
	EDS-262	政治学(国際政治を含む)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的内容を含む科目」である。人間や人間社会の諸問題を解決する力を身につけるために、政治学を国際関係における政争術と捉え、国際情勢を正確に読み解き、国際理解を深める講義を行う。具体的には、言語・宗教・民族を注視し、主権国家、国際法、近世・近代・現代における戦争と戦争観、地政学、国家指導者の役割などについて、論理的な枠組みを踏まえつつ、随時事例を交えて解説する。これらを通じて、教養、自己教育力、思考力、判断力を養う。これは、洋の古今東西を問わない普遍的な「人間とは何か」という根本的な問題にアプローチする方策の一つでもある。	(1) 新聞やテレビ等のニュースを見て、「5W1H」を読み取り、その内容を他人に語るができる。 (2) 国際情勢を観て語るための基礎的な視座・分析枠組みと専門知識を身につけている。 (3) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に政治学に関する知識)を身につけている。				●		
EDS-263	経済学(国際経済を含む)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的内容を含む科目」である。実社会を見る視点・知識を養うために知っておくべき、経済学の基礎的な知識と手法(ミクロ経済学とマクロ経済学)を学ぶ。経済学は、私たちが暮らす社会の動きや仕組みを明らかにしようとする学問である。例えば、消費者物価とは何か、消費者物価が上がると私たちの生活にどのような影響が及ぶか、私たちはどのような行動をとるかなど、社会の動きや仕組みを、経済学というツールを利用してより深く考察していく。	(1) 最新の政府統計等のデータを見て、現在の社会情勢や変化について捉え、経済学の観点から現実の社会的な事象を論じることができる。 (2) 経済理論と政府統計等のデータを応用し、政策立案・提言することができる。 (3) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に経済学に関する知識)を身につけている。				●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)						
											1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力をつけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力をつけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力をつけている。(思考・判断)	
	EDS-264	哲学概論	講義	2	1	○		ヨーロッパの哲学と中国の思想	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。広く深い教養と知識を身につけるために、ヨーロッパと東洋(中国)の古今の哲学・思想について概説する。まず、自分たちが常識だと思っていることを疑ってみることによって、現在の我々のものの見方、考え方の根底に哲学があることに気づいてもらう。さらに、現代の考え方が、どのように発展・展開してきたのか、ヨーロッパの哲学と中国を中心とした東洋思想を軸とする講義を行い、哲学についての知識を深め、現代の哲学について考察していく。	(1) 東洋と西洋の哲学・思想の概要を説明することができる。 (2) 学問および社会の根底には哲学があることを認識することができる。 (3) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に哲学に関する知識)を身につけている。							
	EDS-265	倫理学概論	講義	2	1	○		教職課程	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。日本人の倫理思想について講義する。現在、国際化が進んでいるが、自分や自分をとりまく日本人の行動様式や倫理観を知ることも忘れてはならない。それらは、日本の歴史の中で、日本古来の思想、仏教思想、儒教思想、アメリカの民主主義など、多くの思想の影響を受けて形成されてきたと考えられる。本科目ではまず、日本人の倫理思想を形成してきた儒教思想および仏教思想を検討する。さらにキリスト教を基本とする西洋の倫理思想を考察することによって、現代日本の倫理思想についての考えを深め、現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につける。	(1) 現代日本人の倫理観を形成している様々な倫理思想を理解することができる。 (2) 自分や他人の行動を客観的に考えることができる。 (3) 社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に倫理学に関する知識)を身につけている。							
	EDS-271	社会科・地歴科教育法 I	演習	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。社会科教員に必要な能力を身につけるべく、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を学ぶ。また、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領の工夫について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための基礎的な知識・技能を習得する。	(1) 学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2) 社会科・地理歴史科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3) 学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4) ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。							
	EDS-272	社会科・地歴科教育法 II	演習	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。社会科教員に必要な能力を身につけるべく、「社会科・地歴科教育法 I」で学んだ社会科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を授業実践に反映する。また、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領の工夫について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための知識・技能を習得し実践的授業力を身につける。	(1) 学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2) 社会科・地理歴史科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3) 学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4) ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。							
	EDS-273	社会科・公民科教育法 I	演習	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。社会科及び高等学校公民科の目標・内容・方法について学習する。社会科・公民科の歴史的変遷をたどること、その基本的性格を理解する。また、グループで協力しながら社会科・公民科の授業づくりに取り組み、実践する。	(1) 学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2) 社会科・公民科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3) 学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4) ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。							
	EDS-274	社会科・公民科教育法 II	演習	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。中学校社会科及び高等学校公民科の目標・内容・方法について学習する。近年の学習指導要領改訂の動向や、私たちが生きる現代社会への理解を深めながら、社会科・公民科の授業を作る上で重要な点について考察する。さらに、グループで協力しながら授業づくりに取り組む。	(1) 学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2) 社会科・公民科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3) 学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4) ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。							
	EDS-221	道徳教育の理論と実践(中等)	講義	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につける。	(1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。 (2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解することができる。							
	EDS-222	総合的な学習の時間の指導法(中等)	講義	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。	(1) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解することができる。 (2) 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につけている。 (3) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することができる。							
	EDS-321	特別活動論(中等)	講義	2	2	○			集団活動を通して「実践力」をどのように育成するか? 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々な行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身につける。	(1) 特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。 (2) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を理解し、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導のあり方を例示することができる。							
	EDS-121	教育方法学(中等)	講義	2	1	○			現代中等教育に求められる教育方法の理論と実践 教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することができる。 (2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている。 (3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけている。							

2022年度 常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)					
											1	2	3	4	5	6
卒業前	EDS-223	ICT教育の理論と方法(中等)	演習	2	1				教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。	(1)情報通信技術の活用の意義と理論を理解することができる。 (2)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解することができる。 (3)児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための基礎的な指導法を身につけている。	●					
	EDS-322	生徒指導・教育相談(中等)	講義	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む)を学ぶ。	生徒指導 (1)生徒指導の意義や原理を理解することができる。 (2)すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 (3)児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 教育相談 (1)学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。 (2)教育相談を進める際に必要な基礎知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解することができる。 (3)教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解することができる。	●	◎				
	EDS-323	進路指導論(中等)	講義	2	2	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。	(1)進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 (2)全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解することができる。 (3)児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解することができる。	●					
	EDS-331	中学校教育実習(事前事後指導を含む)	実習	5	3	○	4		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 中学校教諭一種免許状の取得を希望する者、または、中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方の取得を希望する者を対象とする。 本科目は実習校における教育実習と、その事前指導・事後指導から構成される。中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につけるべく、事前指導では教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学ぶ。教育実習では3週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を行う。事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認する。 講義および模擬授業では、教科教育学の立場、現職経験者の立場からそれぞれ指導・講評を行う。	(1)事前指導では教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自覚を高めることができる。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身につけている。 (2)事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望をもつことができる。 (3)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (4)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。					●	◎
	EDS-332	高等学校教育実習(事前事後指導を含む)	実習	3	3	○	4		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 高等学校教諭一種免許状のみの取得を希望する者を対象とする。 本科目は実習校における教育実習と、その事前指導・事後指導から構成される。中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につけるべく、事前指導では教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学ぶ。教育実習では3週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を行う。事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認する。 講義および模擬授業では、教科教育学の立場、現職経験者の立場からそれぞれ指導・講評を行う。	(1)事前指導では教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自覚を高めることができる。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身につけている。 (2)事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望をもつことができる。 (3)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (4)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。					●	◎
	EDS-333	教職実践演習(中・高)	演習	2	4	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかを確認する「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。 特に、 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 3. 生徒理解や学級経営等に関する事項 4. 教科内容等の指導力に関する事項 の4つの事項を含む。 これらの事項について、役割演技(ロールプレイング)、事例研究、現地調査(フィールドワーク)、模擬授業等による学びを通して、中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につける。	(1)将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚でき、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートすることができる。 (2)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (3)学校組織の特徴や協働する意義を理解するとともに、大学等におけるサークルや団体活動等の運営に主体的に関わることができる。 (4)安全管理に関する基礎知識をもち、子供の安心・安全を常に意識し、対応することができる。					◎	●
卒業前	THS-201	ゼミナール I	演習	2	3	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づく科目である。 「ゼミナールI・II」「卒業論文I・II」の成果物といえる卒業論文、あるいは科目としての「ゼミナールI・II」「卒業論文I・II」は、教育学科中等教育コースカリキュラム・ポリシーに添った教育学の学びで学生が身につけた資質・能力が有機的に統合され形成されたかについて、ディプロマ・ポリシーに照らして最終的に確認する科目である。 学生自身の資料収集・分析、実験、討論を重視しつつ、教員による個別指導・集団指導を通して、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」を図る。	(1)教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養および高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけている。 (2)教育をめぐる現代的課題を理解し、教育に関する十分な知識と技能に基づき解決策を見出すことができる。 (3)学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を身につけている。 (4)新規性・独自性と客観性・正確性に関する知識・技能を習得し、それを文章・口頭で表現できる。						●
	THS-202	ゼミナール II	演習	2	3	○			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づく科目である。 「ゼミナールI・II」「卒業論文I・II」の成果物といえる卒業論文、あるいは科目としての「ゼミナールI・II」「卒業論文I・II」は、教育学科中等教育コースカリキュラム・ポリシーに添った教育学の学びで学生が身につけた資質・能力が有機的に統合され形成されたかについて、ディプロマ・ポリシーに照らして最終的に確認する科目である。 学生自身の資料収集・分析、実験、討論を重視しつつ、教員による個別指導・集団指導を通して、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」を図る。	(1)教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養および高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけている。 (2)教育をめぐる現代的課題を理解し、教育に関する十分な知識と技能に基づき解決策を見出すことができる。 (3)学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を身につけている。 (4)新規性・独自性と客観性・正確性に関する知識・技能を習得し、それを文章・口頭で表現できる。						●

2022年度 常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)					
										1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)
研究	THS-301	卒業論文Ⅰ	演習	2	4	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づく科目である。「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」の成果物といえる卒業論文、あるいは科目としての「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」は、教育学科中等教育コースカリキュラム・ポリシーに添った教育学の学びで学生が身につけた資質・能力が有機的に統合され形成されたかについて、ディプロマ・ポリシーに照らして最終的に確認する科目である。学生自身の資料収集・分析、実験、討論を重視しつつ、教員による個別指導・集団指導を通して、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」を図る。	(1)教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養および高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけている。 (2)教育をめぐる現代的課題を理解し、教育に関する十分な知識と技能に基づき解決策を見出すことができる。 (3)学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を身につけている。 (4)新規性・独自性と客観性・正確性に関する知識・技能を習得し、それを文章・口頭で表現できる。						●
	THS-302	卒業論文Ⅱ	演習	4	4	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づく科目である。「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」の成果物といえる卒業論文、あるいは科目としての「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」は、教育学科中等教育コースカリキュラム・ポリシーに添った教育学の学びで学生が身につけた資質・能力が有機的に統合され形成されたかについて、ディプロマ・ポリシーに照らして最終的に確認する科目である。学生自身の資料収集・分析、実験、討論を重視しつつ、教員による個別指導・集団指導を通して、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」を図る。	(1)教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養および高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけている。 (2)教育をめぐる現代的課題を理解し、教育に関する十分な知識と技能に基づき解決策を見出すことができる。 (3)学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を身につけている。 (4)新規性・独自性と客観性・正確性に関する知識・技能を習得し、それを文章・口頭で表現できる。						●

2021年度以前入学生カリキュラム 常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図

	EDS-123	教育方法学Ⅱ(中等)	演習	2	2・3・4	○		「学習科学」とその実践的活用に向けてカリキュラム・ポリシーにもとづき、教育に携わるものに求められる教育方法学について学ぶ。現代の教育方法学の基底にある「学習の科学」の多様な知見を学び、その授業づくりとしての実践的活用について学ぶ。受講生各自が関心ある「学習科学」の理論を取り上げ報告し、討論するなどアクティブラーニングを基調に学ぶとともに、授業づくり・教育方法に関する小論文を作成する。	社会人あるいは教員として、教育方法学について以下の資質・能力の育成に寄与することを目指している。 (1)「学習科学」の諸理論を理解する。 (2)「学習科学」を踏まえた授業づくりの視点を理解する。 (3)授業づくり・教育方法について小論文を作成できる。	●					
	EDC-111	教職入門	講義	2	1・2	○		・本授業は、中学校および高等学校の教員免許状の取得を目指す学生を対象に、教職についての理解を深めることを目的とした入門的科目です。 ・カリキュラム・ポリシーに基づき、教員として必要な資質を養うとともに、生徒の「生きる力」を育むための基礎的な知識の獲得を通じて、自己教育力、思考力、判断力や表現力を養う科目です。	(1)教員という職が誕生した歴史的・社会的背景や、教員の養成・採用・研修をめぐる現代的動向といった教職を取り巻く政策的・制度的状況など、教育および教職をめぐる基礎的な知識を修得している。 (2)教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。 (3)「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」における採用時の姿として以下の項目が体现できる基礎的な知識・理解・思考・判断・態度を修得している。 【社会人として】 (1)人間性が豊かで、言葉遣い、あいさつ、礼儀等の備えておくべきマナーをもって行動することができる。 (2)人権に関する知的理解があり、人権感覚を持って行動することができる。 (3)常にコンプライアンスを意識して行動することができる。 (4)コミュニケーション力を生かし対人関係を構築することができる。 (5)ストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる。 (6)多様な文化の生活・習慣・価値観を尊重することができる。 【教員として】 (1)子供が好きで、子供とともに考え、子供の気持ちを理解することができる。 (2)自己の現状と課題を知り、他の教員の指導や意見に耳を傾け、学び続けることができる。 (3)保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応することができる。 (4)学校教育に関する法令等と学校の役割を理解することができる。	●					
	EDC-112	教育学概論	講義	2	1	○		・子どもが人として生まれ、人間として形成されていく過程で、大人・教育者はどのような役割を担うべきか、また、社会は社会的存在としての人間の形成にどのように関わるべきか。こうした課題を、人間の発達、教育の目的、内容、方法、制度的・組織的原理等に関する基礎理論・基本概念をふまえて、多面的に考察する。 ・第1～7回講義(上田誠二担当)は、日本教育史における理論と実践を中心に講義し、それを受けて第8～15回講義(平井悠介担当)では、そもそも西洋近代に誕生した公教育制度の理念とは何だったのかを問い、その展開過程を跡づける。総じて、西洋の公教育制度が近代以降の日本に摂取され展開した過程を検討することにより、現代公教育の可能性と課題について把握する。可能な限り対話と討議を組み込むため、受講生は計画に示された各テーマについてあらかじめ問題関心を深めておくことが求められる。 ・教育の原理を社会と歴史との関係の中で多面的に理解する本授業の内容は、「人間とは何か」という根源的な問いに関わるものであり、広い視野から人間や人間社会を理解していくための基礎を受講者が修得することを旨とする授業である。そのため、意見共有やディスカッション等が適宜盛り込まれ、多様な見解を理解する機会が含まれている。	(1)人間形成に関わる教育の諸要素が相互にいかに関連しているかを論じることができる。 (2)人間の発達の助成としての教育の可能性と限界について、現代の社会状況との関連のなかで、論じることができる。 (3)現代教育に対する近代教育思想の有効性について考察し、論じることができる。 (4)近代教育思想に根ざす歴史についての基礎的な理解を示すことができる。 ・これらの到達目標は、教育に関わる諸問題を自ら発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析によつて的確な判断を下すことのできる人材像に密接に関わる。さらに、多様な文化の価値観を尊重できる社会人、学校の役割を理解するとともに子どもの実態を理解し教育活動に従事できる教員像に密接に関わっている。広くは、以下が具体的な到達目標となる。 【社会人として】 (1)人間性が豊かで、言葉遣い、あいさつ、礼儀等の備えておくべきマナーをもって行動することができる。 (2)人権に関する知的理解があり、人権感覚をもって行動することができる。 (3)常にコンプライアンスを意識して行動することができる。 (4)コミュニケーション力を生かし対人関係を構築することができる。 (5)ストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる。 (6)多様な文化の生活・習慣・価値観を尊重することができる。 【教員として】 (1)子供が好きで、子供とともに考え、子供の気持ちを理解することができる。 (2)自己の現状と課題を知り、他の教員の指導や意見に耳を傾け、学び続けることができる。 (3)保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応することができる。 (4)学校教育に関する法令等と学校の役割を理解することができる。	●					
	EDC-114	学校と教育の歴史	講義	2	1・2・3・4	○		幕末維新期、日本は欧米列強からの圧力を受けて、国民国家の建設を急速に推し進める。従来の人間形成のあり方は異なる「教育」という営みは、近代化が進展するこの時期に成立する。そして19世紀に制度化された教育システムは、20世紀における二つの世界大戦を経て、現代的なものへ改編されていく。本講義では、「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、関連する制度の動向とともに概説する。それを通じて、学生は自身の経験を省察し、多面的に考える視点を身につける。	(1)「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べることができる。	●					

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)
	EDC-115	教育心理学	講義	2	1・2・3・4	○		カリキュラムポリシーにある「幼児、児童、生徒の成長と発達」の深い理解のために、心身の発達及び学習の過程に関わる基礎的な内容を学習する。乳幼児期から青年期にわたる発達の過程の理解、学習の諸側面の理解、社会・集団の心理学の理解は重要になってくる。さらには、定型発達の理解と合わせて発達障害の理解も必要である。このように、発達心理学、学習心理学、社会・集団心理学、臨床心理学の理論を修得することによって、効果的な学習指導や生徒指導実践の前提として、適切な発達観、児童生徒観、学習指導観を涵養することとした。	(1) 乳幼児期、児童期、青年期の発達の特徴を説明することができる。 (2) 学習、記憶、動機づけに関わる基本的内容を理解することができる。 (3) 児童生徒理解のための心理学的方法を理解することができる。 (4) 集団に関わる心理学的知見を理解することができる。 (5) 発達障害の特徴とその心理的支援の方法について理解することができる。 さらに茨城県教育委員会「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」に対応した教育心理学の目標を加える。 (6) 子供の心身の発達に関する知識があり、子供の理解に生かすことができる。 (7) 法で示すいじめの定義及びいじめはどの子供にも、どの学校でも、起こりうる、ということを理解することができる。	●					
	EDC-116	教育経営論	講義	2	2・3・4	○		公教育の法制度・行政・経営の仕組み	カリキュラム・ポリシーにもとづき、以下の内容で行う。すなわち、学校教育制度と教育委員会制度の基本的な理解を中心としながら、学校経営及び教師の抱える諸課題について考えることを通して、「開かれた学校」としての学校教育を全体像として探究することを目的とする。また、教育法規の構造や教育制度の歴史について資料等で確認し、基本的な知識を得るとともに、ビデオ(教育・学校改革等)を見て、受講者のなかで共通認識をつくる時間も設ける。	(1) わが国の教育制度の基本的な内容を中心に理解を深めることができる。 (2) 教育委員会や学校における具体的な内容を通して、教育制度を理解できる。 (3) 教育制度を固定的に捉えるのではなく、その起こりや変容に着目できる。 (4) 学校の組織や経営に関して理解を深めることができる。 (5) 学校組織の特徴や協働する意義を理解することができる。 (6) 大学等におけるサークルや団体活動等の運営に主体的に関わるすることができる。		●			
	EDC-117	教育社会学	講義	2	1・2・3・4	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシーおよび「教職課程コアカリキュラム」に基づき、教育活動を担うにあたり必要となる基本的素養・素養および高度専門職としての教育者に求められる力量を身に付けることを目的として、現代の教育に関する社会的・制度的状況およびその課題について検討するとともに、地域と学校の連携・協働、学校安全・安全教育のあり方について検討します。	「教職課程コアカリキュラム」および「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」に基づき、(1) 社会の状況およびその変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題並びにそれに対応するための教育政策の動向について理解し、考察することができる。 (2) 現代公教育制度の意義・原理・構造にかんじ、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともにそこに内在する課題について理解し、考察することができる。 (3) 学校組織の特徴や協働する意義を理解することができる。 (4) 大学等におけるサークルや団体活動等の運営に主体的に関わるすることができる。 (5) 安全管理に関する基礎的知識をもち、子どもの安心・安全を常に意識し、対応することができる。ことを目標とします。	●					
	EDS-122	教育方法学 I (中等)	講義	2	2・3・4	○		現代中等教育に求められる教育方法の理論と実践	カリキュラム・ポリシーにもとづき、これからの社会をになう生徒に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法・技術・情報機器・教材の活用等に関する基礎的な知識と技能を身につけるために、教育方法の基礎理論、新学習指導要領における教育方法改善の視点、現代の教授・学習論、教育評価論、ICTの活用、学習指導案の作成に関する最新の理論とその活用法について、アクティブラーニングを基調に学ぶ。	社会人あるいは教員として、教育方法学について以下の資質・能力の育成に寄与することを目指している。 (1) 中等教育をになう教師として必要不可欠な教育方法の基礎理論と実践を理解する。 (2) 新学習指導要領で強調されている授業改善の視点：「主体的・対話的で深い学び」の在り方を理解し、実践する技能を習得する。 (3) 学習評価の理論と手法、ICTの活用の最新の理論と手法を習得する。 (4) 教育方法に関連した中等教員採用試験対策にもなり得る知識と技能を習得する。	●				
	EDS-112	生徒指導論(中等)	講義	2	2・3・4	○		現代の社会は、あらゆる社会通念・社会構造が解体・流動化しつつある「後期近代」の時代に突入しており、とりわけ生徒指導や教育相談の文脈においては児童生徒の特性や背景情報などを適切に把握し、丁寧な対応を施す必要性が格段に高まってきている。そこでこの授業では、始めに生徒指導や教育相談の重要性や原理を確認し、適切な理解と配慮が求められる各教育的事象について取り上げていく。そして、複雑化する教育現場において教師に求められる役割や、対応の方策を併せて紹介・検討していく。	(1) 学校における生徒指導上の課題を理解することができる。 (2) 公平かつ受容的・共感的な態度で子供と関わるができる。 (3) 教育相談の意義、基本的な理論や技法を理解することができる。 (4) それぞれの児童生徒が有する特性や課題などを適切に把握し、丁寧な対応・配慮をおこなうことができる。 (5) 教育現場にて求められる教師の役割や、生徒指導の方策を考察することができる。	●	◎				
	EDS-114	教育相談(中等)	講義	2	2・3・4	○		教育相談は、一人ひとりの児童の教育上の問題について、本人又はその親などに、その望ましいあり方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が児童に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育活動の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。 授業では、カリキュラムポリシーにおける、教育の実践的指導力などの高度な資質と能力に関わる内容を扱い、教育相談の基礎的内容として、教育相談の意義と学校における教育相談体制、児童生徒理解のための発達心理学及び臨床心理学の知見を講義する。また、教育相談のための基礎的面接技法や授業を通しての教育相談の実践技法について、グループワークと演習・実習を通して学ぶ。さらに教育相談の事例をディスカッション、グループワークを通して学ぶ。	(1) 教育相談の意義、内容、方法を説明することができる。 (2) 児童生徒を理解するための基礎知識として、児童期青年期の発達の特徴を説明することができる。 (3) 教育相談の基本的技法を理解し、遂行することができるようになる。	●	◎				